

新年度(2019年度)も、さらに男女共同参画推進事業を展開していきます

「神戸学院大学男女共同参画推進計画 2018-2022」実行の2年目にあたる2019年度も、初年度である2018年度に始めた各種事業を継続・普及・拡充していくとともに、新規事業にも取り組んでいきます。研究・教育・社会貢献に業績のあった女性教職員を顕彰する「森わさ賞」の新設や、男女共同参画に取り組む事業所について大学生が取材し情報発信していく事業、読書会や映画会等を行う学生たちの「男女共同参画 student book club」などのほか、専門家による個別の「介護相談会」も新設します。教員における上位職(准教授以上)割合は、計画時の22.2%から2019年2月時点で23.2%へ、教員・事務職員管理職位者は計画時の8.8%から10.5%に増加してきています。新年度も、男女共同参画推進事業にぜひご参加ください。

2月18日、学長カフェを開催しました

佐藤雅美学長を囲んで(住智明事務局長同席)、コーヒーを飲みながら学長カフェが開催されました。20人の教職員が参加し、入試業務等を含む業務の効率化、会議のもちかた、女性管理職や上位職の拡大、学生たちの男女共同参画教育の拡充、職場全体の意識改革などについて時間を延長して活発な意見交換が行われました。

佐藤学長からも、男女共同参画がワーク・ライフ・バランス等様々な課題と一体的に取り組まねばならない課題であり、業務についてもきっちりやるところと効率化するところを仕分けして取り組みたい等のお話がありました。

男女共同参画がこれからの大学運営のために不可欠であるとの参加者の意見に、皆が賛同した熱い時間でした。



2月5日、第1回男女共同参画・ジェンダー卒論合同発表会を開催しました

複数の学部から12人の応募があり、当日は卒業研究の成果を約40人の参加者の前で発表しました。参加者全員による投票の結果、GC学部4年次生・三谷七海さんの研究「中国の高齢化問題と介護ケアに関する一考察」が優秀賞を受賞しました。三谷さんは「色々苦労したけれど、成果が出てよかった」と受賞の言葉を述べました。

発表の要旨集は男女共同参画推進室でご覧いただけます。



栄養学部 太田講師が日本病態栄養学会若手研究者特別賞を受賞しました

第22回日本病態栄養学会年次学術集会在1月11日から13日、パシフィコ横浜で開催され、栄養学部太田淳子講師が「骨粗鬆症外来患者における年代別の筋力低下と関連因子の特徴」で若手研究者賞「YIA (Young Investigator Award)」特別賞を受賞しました。



日曜・祝日勤務一時保育事業を利用して

12月23日(月・祝)の祝日授業日、10時~13時で学内の一時保育を利用させて頂きました(3歳・男)。

お部屋にはおままごと用のキッチンやプラレールもあり、保育園とは違って先生やおもちゃを独り占め、とっても楽しかったようです。「今日もママの学校の保育園に行く〜」と、ことあるごとに言っています。

学内ということで安心して預けることができました。また、利用させて頂きます。



(総合リハビリテーション学部 助教 小形晶子)

2月18日、女性研究者ランチミーティングを開催しました

10学部のうちの文系理系7学部等から10人が参加し、ランチをもちよって和気あいあいと、かつ率直な意見交換を行いました。

学部・学科ごとに女性研究者割合や上位職(准教授以上)割合に大きな差があること、数が増えていくことがライフイベントと研究継続の両立をしやすい職場環境づくりにつながることなど、ふだんはなかなかわかりづらい他学部の情報等も交換しつつ、このような横断的仲間づくりの場の必要性について参加者で共有しました。